令和２年2月５日(水)
桑名市国際化推進検討委員会資料

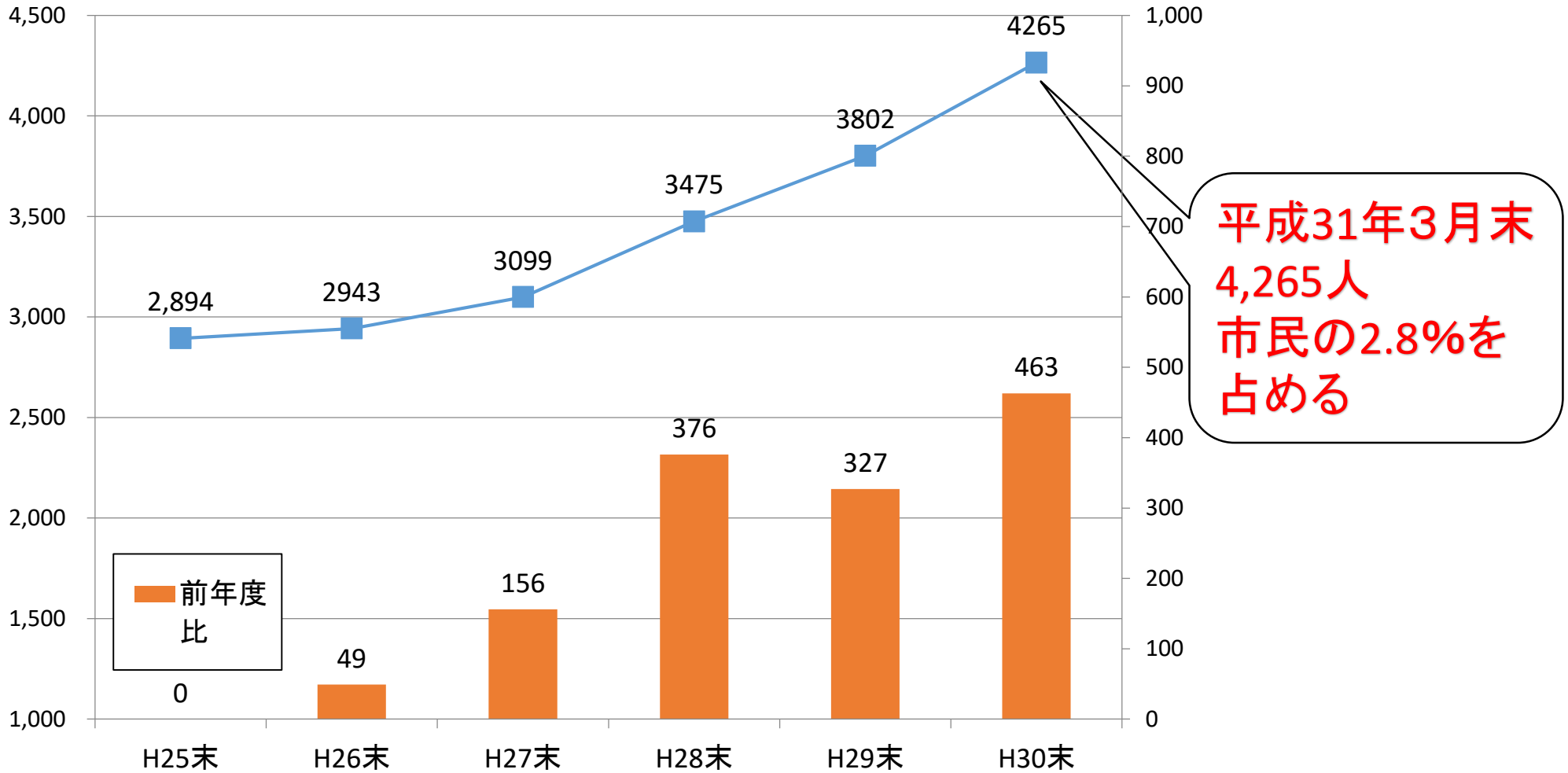
本物力こそ桑名力

多文化共生事業について

女性活躍・多文化共生推進室

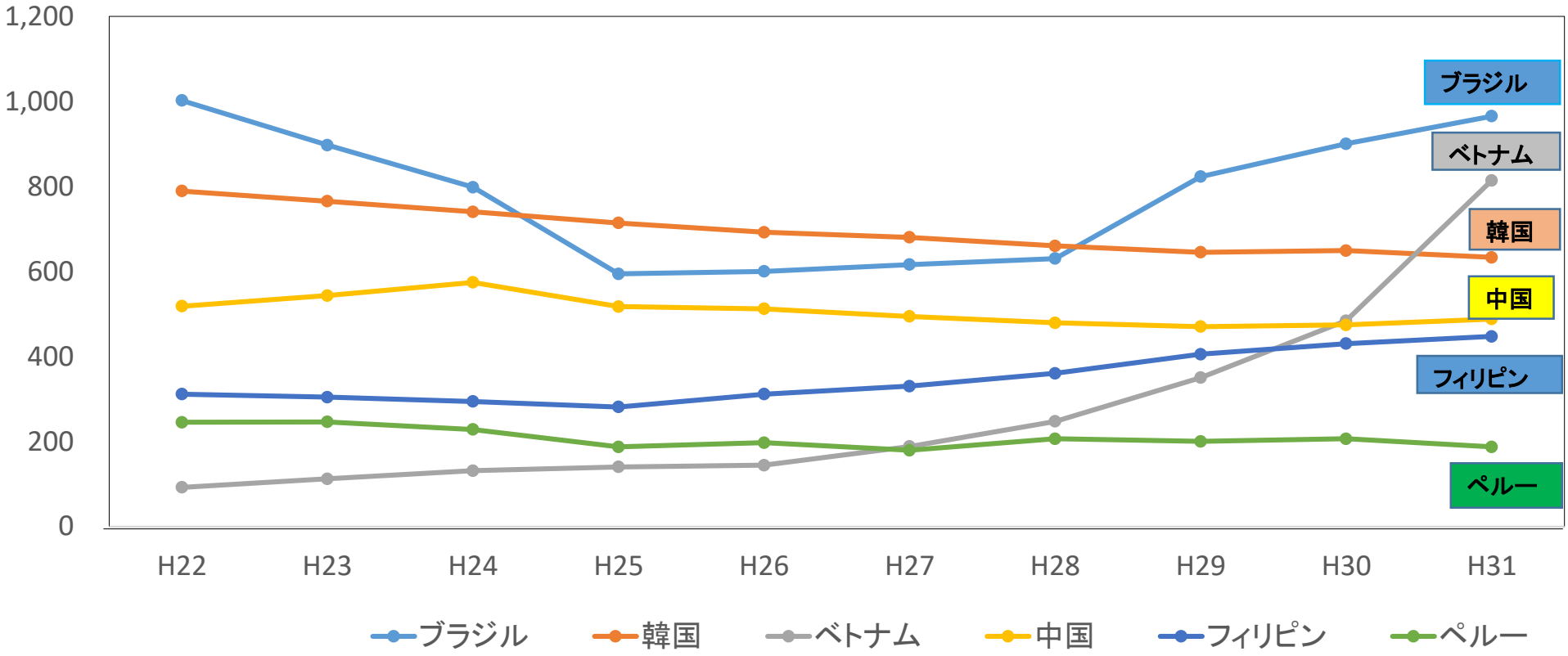
現状

外国人登録者の推移



外国人住民数6年連続増加、昨年1年間で463人増加

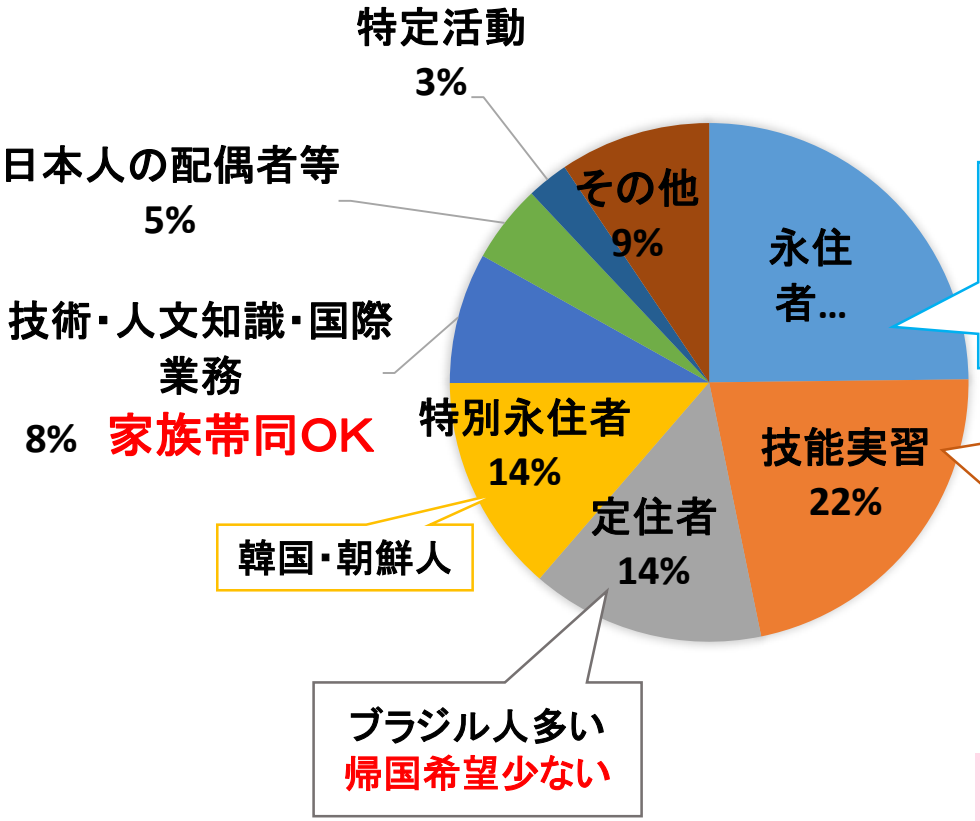
国籍別外国人数推移



・外国人住民数　1位ブラジル、2位ベトナム、3位韓国、4位中国、5位フィリピン、6位ペルー

・ベトナム人技能実習生急増！

在留資格内訳



ブラジル人多い
帰国希望少ない

ベトナム人多い
単身のみ
帰国希望多い

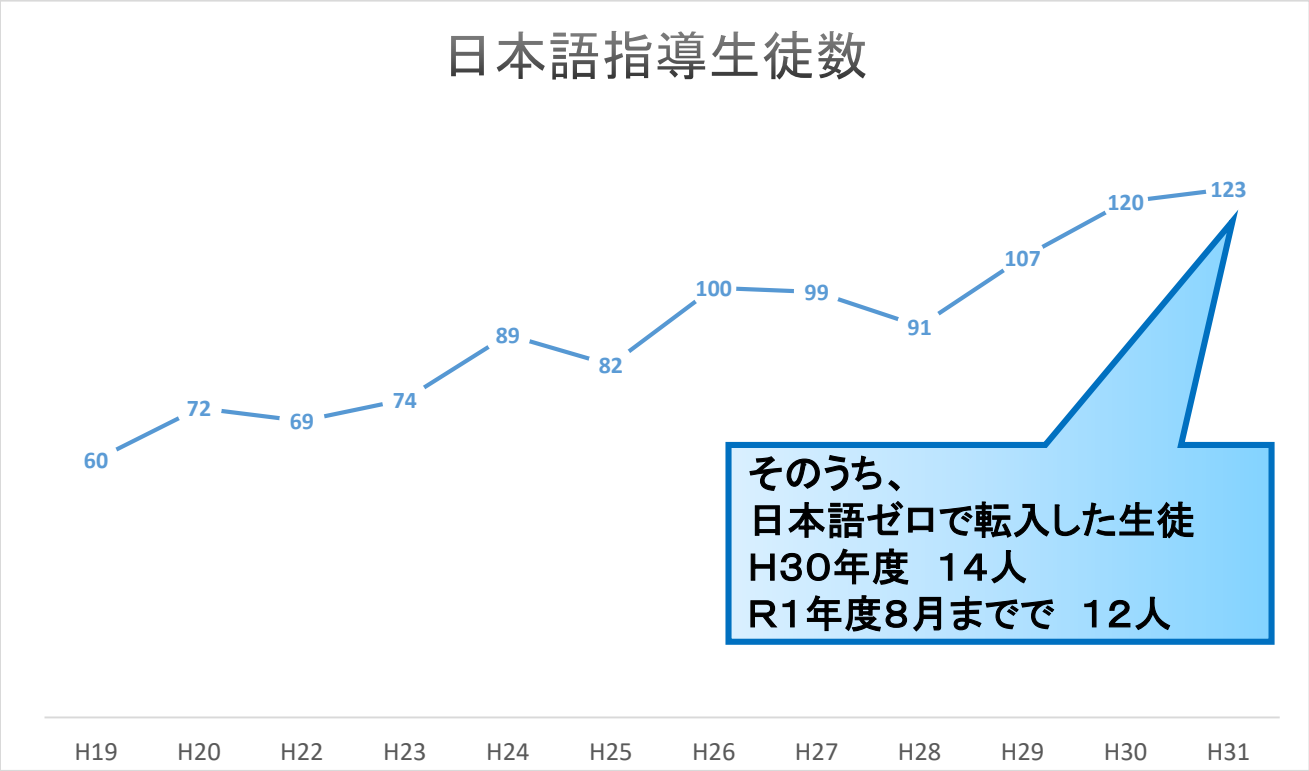
この4月から在留資格「特定技能」が創設

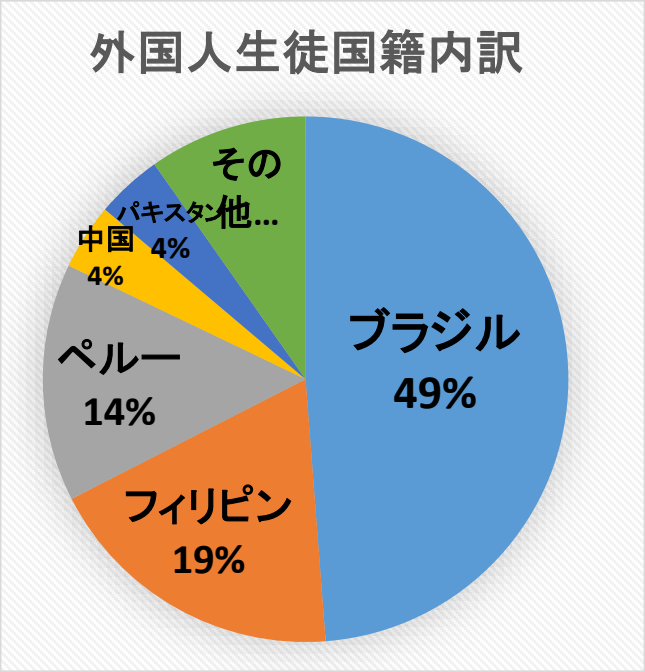
＜定住者や永住者＞
日本に住み続ける可能性が高い
→将来的に（特に子どもは）日本国籍を取得していく可能性が高い

外国人住民との共生への課題

本物力こそ桑名力

・行政窓口や情報の多言語化
・相談体制の整備
・日本語教育の充実、日本文化や習慣の周知
・地域社会との共生促進
・外国人生徒への日本語指導、学習支援
・災害時の外国人住民への対応
・住宅確保のための環境整備
・外国人サポーターの充実
・外国人雇用企業との協力体制の構築など





・日本語ゼロで入国してくる子供が増加
・ダブルリミテッド（ポルトガル語も日本語も話せるけど、どちらの言語もうまく使えない）の心配
・授業についていけない→学習支援が必要

本物力こそ桑名力

やさしい日本語講座（庁内研修）

平成31年6月5日開催（二回開催）

参加者：34名（庁内窓口対応のある所属の職員）

講師：三重県ダイバーシティ社会推進課多文化共生班

国際交流員　ウィルソン・ロッシ氏　ロナルド・ウー氏　戴・嘉汐氏

【内容】

〇やさしい日本語とは何かについて講義

〇国際交流員が、市役所の窓口に
　来た外国人として窓口を想定した
　ロールプレイ

多文化共生セミナー

本物力こそ桑名力

外国人との共生のための総合的対応策
令和元年9月27日開催

参加者：27名

講師：NPO法人愛伝舎　坂本　久海子　氏

やさしい日本語ツーリズム研究会　吉開　章　氏

【内容】

〇桑名市の外国人住民数やどの国籍の外国人が多いのかなど、桑名市の外国人住民の現状について紹介。

〇多文化共生の必要性についての説明。

〇やさしい日本語についての知識や考え方、やさしい日本語の必要性についての説明。

市内の日本語教室

本物力こそ桑名力

◆日本語教室（桑名市国際交流市民アドバイザー委員会）

毎月第2・第4日曜日　午後2時～午後4時

修徳まちづくり拠点施設にてボランティアによる日本語教室を開催

春と秋の年2回、交流会イベントを開催

（H31年度は移動教室・さくら祭り）

※各回15～30名程度の参加者があり、

6～10名程のスタッフで開催

※ベトナム人の生徒が最も多く、フィリピン人、

インドネシア人の生徒も増加傾向にある。

◎　桑名市国際交流市民アドバイザー委員会HP

http://www.geocities.jp/kuwana_nihongo/index.html

◎ Facebook:　Kuwanasi nihongo kyositu

市内の日本語教室

本物力こそ桑名力

◆ASANTE　SANA（あさんて　さあな）

第１、２、３水曜日　17：00～18：30（こども教室）

19：00～20：30（おとな教室）

大山田団地集会所にて開催（毎月100円）

◆交流サロン　ほっと

主に第１、第３土曜日と第４日曜日　9：00～11：30

修徳まちづくり拠点施設にて開催（無料）

【参考】公益財団法人三重県国際交流財団MIEFホームページ

http://www.mief.or.jp/jp/exchange_groups.html

多文化共生に関する取り組み

本物力こそ桑名力

カエルプロジェクト
～ポルトガル語で子育て懇談会～

9月23日中日新聞

日本での子育て考える

桑名でブラジルにルーツの住民

ブラジルにルーツを持つ住民が日本での子育てについて考える懇談会が二十一日、桑名市の大山田まちづくり高点施設であった。参加した十三人がブラジル・サンパウロで活動する臨床心理士の中川郷子さん（六）と子どもの将来を考えた。

中川さんは、両国の文化の違いを説明する大切さを指摘し、「問題解決には多くの人に相談して臨むのが良い」と助言した。

子どもが身に付ける言語の選択も課題に挙げ、「日本語もポルトガル語も中途半端だと勉強に支障が出る。日本で暮らすなら日本語をしっかり学んだ方が良い」と指摘した。

参加したシルベイラ・フランサ・トシミツ・ジゼーレさん（三七＝同市＝は、家庭ではポルトガル語で話す長女（六）に日本語を中心に学んでもらうという。

「（習得に）十年はかかると聞いた。ゆっくり学んでもらおうと思うし、『早く覚えて』というストレスも感じなくなった」と話し、日本語で子どもに算数を教えるのに苦労した経験も打ち明けた。

懇談会は、ブラジルにルーツを持つ子どもが日本やブラジルの社会になじめるよう手助けする「カエルプロジェクト」の一環。プロジェクトを支援する三井物産と、NPO法人「愛伝舎」（鈴鹿市）が共催した。（渡辺晴紀）

「多くの人に相談して」「日本語しっかり学んで」

情報やご感想をお寄せください

ファクス 059(225)6213
Eメール mie-s@chunichi.co.jp
中日新聞三重総局

日出	5:43
日入	17:49
月出	0:05
月入	14:46
月齢	24.7
満潮	0:14
	15:13
干潮	7:50
	21:04

～国際担当者セミナー
大山田北小学校～

セブン銀行アプリによる多言語発信

中日新聞　2019年（令和元年）10月5日（土曜日）　北勢　24

外国人に9言語情報発信

桑名市 セブン銀アプリ活用

24日協定 県内初の運用

ごみ分別
災害備え
などなど

愛知県がセブン銀行のアプリで提供するタガログ語の生活情報＝桑名市役所で

桑名市は、九言語に対応するセブン銀行の海外送金アプリを活用し、市内に住む外国人に地域情報を発信する。愛知県、名古屋市、横浜市など十二自治体が同様の取り組みをしているが、県内では初めて。（谷村卓哉）

アプリは日本語のほか、英語、タガログ語、中国語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語に対応する。市によると、為替レートを細かく確認でき、送金手数料も安いことから、日本在住の外国人労働者の五人に一人がアプリを通じ同行に口座を開設している。

市内に住む外国人は二〇一三年から六年連続で増加。今年三月末現在、四千二百六十五人を数え、市民の2・8％を占める。最多はブラジル人の九百六十五人で、鉄工業界での技能実習生が急増しているベトナム人が八百十四人と続き、三位は韓国人の六百二十三人。情報発信の多言語化が課題となっており、市は利用者の多い同行と連携することにした。

当面、複数言語の説明がすでにある「ごみの分別方法と出し方」「災害への備え」「日本語教室の案内」をアプリで見られるようにし、順次、情報量と対応言語数を拡大する。

二十四日に同行と「多文化共生の推進に関する協定」を結び、運用を始める。

北勢版
47CLUBで新たなビジネスチャンスを出店社募集
47 CLUB
TEL.052-221-0686

本物力こそ桑名力

どこでも市長室by多文化共生

令和元年11月9日開催

ブラジル人住民と桑名市長が
日本人の通訳を交えて意見交換会を実施

外国人住民との意見交換は、
「どこでも市長室」始まって以来初めて！

外国人雇用管理セミナー

令和元年11月29日開催

ハローワークと共同で、外国人雇用管理セミナーを実施。
市内企業者に向けて、桑名市の外国人住民の現状を説明し、外国人も含めて誰にとっても暮らしやすい桑名市を目指していることを説明し、企業にも協力を求めた。

今後について（令和２年度予定）

◎通訳システムを導入予定

◎外国人住民への聴き取りとアンケート調査
　⇒課題の把握と課題解決への方向性をまとめる

◎カエルプロジェクト

◎やさしい日本語講座開催

◎企業訪問